

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Cコート	第1試合 9:00~
<チームA> 東海大学付属相模 神奈川 4位		60 $\left\{ \begin{array}{l} 14 \text{ 1Q} \\ 11 \text{ 2Q} \\ 20 \text{ 3Q} \\ 15 \text{ 4Q} \end{array} \right\} 78$		<チームB> 都立駒場 東京 7位

【Bブロック】

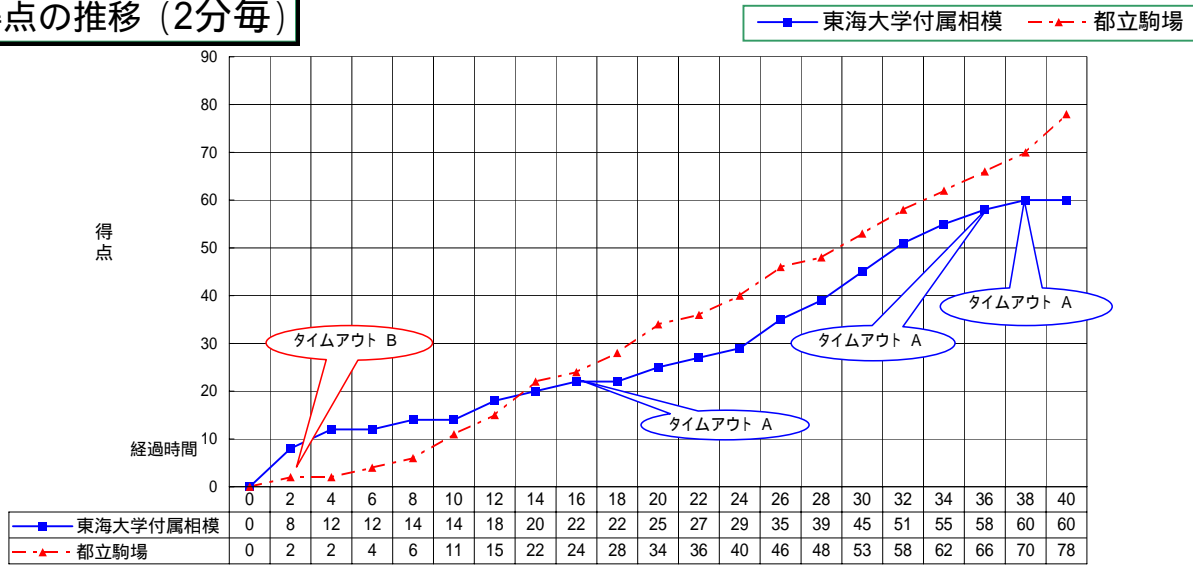
主審：鴨志田和歌子(茨城) 副審：野津 克博(茨城)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	藤森 雄太	13	1	5		2
	5	関 拓郎	2		1		2
	6	中澤 岳士	7		3	1	2
	7	高橋 佑介	4		2		2
	8	須釜 幸一	8		4		
	9	梅林 聡貴	20		10		3
	10	大石 幸永					4
	11	小山 拓実					
	12	沼田 大将					
	13	小川 匠					
	14	組田 夏生					
	15	小林 将					
	16	岩田 涼太	6		3		1
	17	大石 佳佑					1
	18	青柳 葉月					
コーチ		大石 宏志					
合計			60	1	28	1	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	丸山 大貴	17		8	1	1
	5	鄭 卓	2		1		1
	6	豊島 慎慈	2		1		1
	7	甲斐 智之	14	1	4	3	1
	8	渡邊 樹					
	9	梅原 理樹	20		9	2	3
	10	中村 裕之	4		2		
	11	岩尾 俊幸	4		2		
	12	高畑 魁斗					
	13	吉村 圭太					
	14	金井 雄希					
	15	水島 篤					
	16	中山 亮平					
	17	丸山 元熙					
	18	小林 祐紀	15		7	1	2
コーチ		那 須 晋					
合計			78	1	34	7	

：スターター / ：出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評

記者： 斧田 典之

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がりは東海相模がベースをつかみ、梅原のゴール下シュートを皮切りに落ち着いたボール回しから得点を重ね8-0とリード。都立駒場は、梅原のドライブインで初得点をあげるが、相模の厳しいボールマンプレッシャーに苦しみなかなか得点を重ねることができない。第1P6分過ぎ、駒場はディフェンスを1-2-2ゾーンプレスに変えると徐々にペースをつかみ、速い攻めを随所で展開し4点差まで追いついてピリオドを終了する。

第2P、両チームともにディフェンスに安定感を見せ、駒場が甲斐の3Pシュートで同点に追いついてからは、一進一退の攻防が続いた。ピリオド終盤、駒場は小林のポストプレイ、丸山のドライブインなどで着実に得点を上げ、徐々に点差を広げ始める。相模は岩田のポストプレイを中心にオフェンスを展開するが、インサイドを攻めあぐね、駒場が9点リードで第2P終了。

第3Pに入っても駒場は速いパス回しからの1対1やアウトサイドなどで得点を重ねる。オフェンスで良い形を作りながらも、シュートを決められず苦しんでいた東海だが、6分過ぎからハイポストを起点とした攻撃がようやく成功し始め、梅原のゴール下シュートや藤森のドライブインなどで得点し、必死に食らいついてゆく。

第4P、シュートが決まり始め、加えて厳しいディフェンスのプレッシャーで何とか追いつけはかる東海だが、駒場は甲斐の1対1や小林のゴール下の頑張りでそれを許さない。両チームとも集中力の高いディフェンス見せた好ゲームだったが、決めるべきシュートをきっちりと決めた駒場が18点差をつけて快勝した。